

## 平成22年度倉敷市立自然史博物館協議会 議事録（要旨）

（開催日時） 平成22年7月23日（金）14時～16時

（開催場所） 倉敷市立自然史博物館講義室

（協議事項） 平成21年度事業報告について  
平成22年度事業計画について

（その他） 平成23年度事業計画について  
資料収集保管事業について

（出席委員） 榎本敬会長，大本芳子委員，河邊誠一郎委員，木下延子委員，草地功委員，佐藤國康委員，裾分出美子委員，園田昌司委員，野瀬重人委員，藤原純子委員，溝手啓子委員，山地治委員

（欠席委員） なし

（事務局） 吉田教育長，淺野教育次長，安藤生涯学習部長，安原館長，江田主幹，狩山主任，奥島主任，西井主事，武智学芸員

（傍聴者） なし

### 《議事録（要旨）》

#### 1 開会

#### 2 開会あいさつ 吉田教育長

#### 3 委員・職員自己紹介 新任委員 草地功委員，園田昌司委員

#### 4 会長・副会長選出 河邊委員から，会長に榎本委員，副会長に野瀬委員を推薦，全員一致で承認。

#### 5 協議

(1) 平成21年度事業報告について

(事務局説明) 資料をもとに、特別展「岡山県の樹木図鑑」等を報告、続いて決算報告。

会 長：質問・意見はあるか。

委 員：22年4月以降の利用者数は増えているか、減っているか。

事務局：学校園の利用が若干増えている。

会 長：平成21年度事業報告については異議なく了承されたものと認める。

(2) 平成22年度事業計画について

(事務局説明) 資料をもとに、7つの事業について説明。続いて予算計画について説明。

会 長：質問はあるか。

委 員：岡山県のレッドデータブックが今年発行されたが、一般頒布がない。欲しい人は県のホームページからダウンロードすればよいが、プリントなどすると本を買うよりも費用が高つくため普及していないのではないかと。他県は一般頒布している。一方、この度自然史博物館で発行した『岡山県のレッドデータ生物』はそのエッセンスにあたるもので、非常に価値が高いため、普及させる必要があるが、売り切れたら増刷するのか。その予算はどうなっているか。

事務局：1,100部の発行で、うち600部が無料頒布、500部が有料頒布分である。有料頒布分については、売れ行きが良ければ、教育委員会内で増刷を相談する。

委 員：昨年発行の『岡山県の樹木図鑑』は評判が良かったが、収益はあったか。

事務局：ほとんど印刷原価で頒布しているので、収益はほとんどない。『樹木図鑑』は特別展の会期中に品切れとなり、教育委員会が残った予算を使って、年度末に増刷できた。今年度も売れ行きが良ければ検討する。岡山県のレッドデータブックには普及版が無いということを広報していければと思う。記者クラブには連絡した。ただし、県がやらないから倉敷市がやるということではなく、倉敷市民のためであるということをご理解いただきたい。

委 員：県のレッドデータブックはホームページからダウンロードできるが、『岡山県のレッドデータ生物』はそのようなことができるか。

事務局：著作権の問題などもあり、今のところ考えていない。

委 員：懸案だった事務職員の配置はどうなったか。事務職員が美術館博物館兼務であるため学芸員に負担をかけていたことについてどのように解消されたのか。

事務局：午前は美術館で勤務、午後は博物館で勤務というようにできるものでない。以前、美術館と兼務だった西井が理科学部出身ということもあり、自然史博物館の専属となった。

委 員：『岡山県のレッドデータ生物』の内容について査読はなされているか。インターネットで個人が主観的に記述するのは違う。

事務局：岡山県版を作成する際に岡山県野生動植物検討会によってチェックされており、今回もほぼ同じメンバーが執筆したので特に問題はないと考えているし、記事ごとに著者名を入れているので、それで判断いただきたい。『岡山県のレッドデータ生物』の原稿については館内でもチェックした。

委員：生き物が絶滅したかどうかの判断について、何年見つからなければ絶滅したと判断するのか。

委員：一応50年というのがある。

委員：個人的には20年見られなければもう絶滅かなと思う。そのあたりの但し書きがあるのか。

委員：環境省のほうではあったと思う。

委員：「子ども用展示解説書」の発行予定時期はいつごろか。

事務局：3月発行の予定。

委員：22年度予算は前年度から100万円増えている。ありがたいことだと思うが、上のほうで承認されているのか。予算の内訳について、この場で承認すればよいか。

事務局：すでに議会の承認を得たものを記載している。

会長：平成22年度事業計画については異議なく了承されたものと認める。

### (3) その他

#### ア 平成23年度事業計画について

(事務局説明)資料をもとに説明。学芸業務の4つの柱をバランス良く継続して行っていきたい。

特別展は地学分野で内容を計画している。

会長：質問はあるか。

委員：地学分野の宝石を扱った特別展では、価値の高い資料も展示されるか。盗難の心配はないか。

事務局：学術的な価値のある、身の回りの鉱物を中心に考えている。現在、宝石は一般になじみの無いものだと思われているが、一般にあるものだということを示したい。特別に金銭的な価値の高いものは考えていない。

委員：林原自然科学博物館で恐竜展の会議に参加した。林原自然科学博物館の展示では、学校教員の協力も得て「展示を見る視点」を作っている。どこをどう見れば価値があるかということを紙にまとめている。巧みに人を来させる仕組みがある。倉敷市立自然史博物館の子ども用展示解説書に、この展示はここをこう見れば意義があるという「視点」を加えていただけたらと思う。

会長：昨年まではたくさんの報告事項があったが、今年は友の会の名前が出てこない。友の会に頼ってはいけないということになったのか。

事務局：協議時間や特別展を見ていただくことに重点を置き、時間の節約のため、要約を作成した。詳細は館報をご覧ください。

委員：教育普及の「普及」について、新聞取材、インターネット、メールマガジンなど、人員少数で難しいだろうが、行事に友の会会員外の参加が増えているものもあるので、外への発信がよくできていれば期待できると思う。美観地区ボランティアガイドに「博物館は良いよ」と言ってもらえないか。ガイドは自然史博物館を見ているか。自然史博物館について研修を受けているか。

事務局：自己研修をされているようで、博物館にも尋ねに来ている。ボランティアガイドは無料で入館できる。

委員：ボランティアガイドに「楽しいよ、時間を潰して見る価値があるよ」と自然史博物館の魅力を観光客に伝えてほしい。

委員：昨年の特展では、チラシを市外の学校へも配布したようであるが、今年はどうか。岡山市では倉敷市立自然史博物館の存在が知られていない。倉敷市の事業だから仕方ないが、もう少し市外へ宣伝したらどうか。

事務局：今年も昨年並みに市外へも配布している。口コミでの宣伝もお願いしたい。

委員：倉敷科学センターで毎年実施する「科学の祭典」では、約1万人の来場者があるので、自然史博物館としてブースを出したらどうか。人形峠のほうの施設も出している。岡山市の人にも知ってもらえる。

委員：『岡山県のレッドデータ生物』の解説書はここに来ないと買えないか。郵送販売はあるか。

事務局：ある。電話でもメールでも受け付けている。

#### イ 当館の資料収集保管事業について

(事務局説明) 資料の収集状況や他館との比較などについて、パワーポイントで説明。

会長：質問はあるか。

委員：購入している資料はどれくらいあるか。

事務局：現在はほとんどない。過去には昆虫標本の一部やレプリカなどを購入している。

委員：研究者にとっても実物資料の保管は重要であるが、理解の乏しい方の中には「保管するにはスペースがあるので、すべての資料をデジタル化して保存すべき」というような荒いことを言う人もいる。資料収集保管の重要性をPRしてほしい。

委員：仮収蔵庫が増えたのだから、ほしいものがあれば、積極的に寄贈を申し入れてはどうか。どんどん手を挙げる人がいると思う。私が死んだらコレクションをどうするかと思っている人が多数いる。大規模なコレクションの受け入れは整理に困るから無理か。選別して受け入れるのか。

事務局：特展など特定のテーマの展示をするときは、依頼して寄贈を受けている。大規模コレクションの受け入れについても、打診があれば極力受け入れる方向で検討する。西日本自然史系博物館ネットワークでは、受け入れ先の決まっていない標本を救済する連携をとっている。

## 6 閉会あいさつ

浅野教育次長：特別展「岡山県のレッドデータ生物」の話題が中心だったと思う。特別展解説書が売り切れたら柔軟に対応する。事務職員の配置については、0.5人が1.0人になったので、19年度42,592人、20年度42,395人、21年度41,312人と減っている年間利用者数を増やし、42,500人を目指したい。

7 閉会

(事務局) 協議会終了後、都合のつく方を特別展示室会場へご案内し、熱心にご覧いただいた。

以上の議事録を、平成22年7月23日開催の平成22年度倉敷市立自然史博物館協議会議事録(要旨)とすることに同意します。

平成22年 8月 1日

倉敷市立自然史博物館協議会

会 長 榎 本 敬

